

2021年度 F1フェローシップシラバス

目次

家庭医療パート	2
病い・ナラティブの理論と家庭医療診療	2
決断の共有	3
地域志向アプローチ	4
継続性からの視点、そして苦悩と癒し	5
経営パート	7
経営パート導入・医療経営概論	7
学習する組織	8
医療制度における診療所のシステムと展望	9
効果的なプレゼン	10
タイムマネジメント	11
マネジャーことはじめ	12
会議運営・質問術	13
リーダーシップとマネジメント	14
教育パート	15
教育パート導入/医学教育者の12の役割①	15
カリキュラム作成(CD)総論① 5+1モデルとOBME	17
CD各論:ニーズ評価	19
教育理論①:成人学習理論	20
CD各論:教育目標	22
CD各論:教育方略と実施	23
CD各論 医学教育における評価の考え方(2021用)	24
方略各論①外来プリセプティング・CSR	26
方略各論②ビデオレビュー	27
方略各論③:症例カンファとSEA	28
方略各論④小グループ学習/抄読会	29
評価各論①:フィードバックの考え方	30
評価各論②(ショーケースPFとその評価)	31
HCFM後期研修プログラムと評価(GR/MSF含む)	32
研究パート	33
研究パートオリエン/家庭医療と臨床研究レクチャー	33

家庭医療パート

講義名	病い・ナラティブの理論と家庭医療診療
講師	宮地 純一郎
形式	1回目：講義、2回目：課題をふまえた議論
到達目標	<ol style="list-style-type: none">1. 家庭医療学の学術的基盤の範囲について講師と議論する2. 家庭医療学においては医療職と患者の交流への視点が複数あることを理解する3. その視点の一つとして、Narrative Medicineの特徴を理解し、それを意識した症例提示を1回経験する
講義の概要	<p>事前課題：準備は不要です</p> <p>当日内容：この講義では、はじめに家庭医療パートの導入的な意味合いをこめて、家庭医療学の学術的基盤について受講生と講師の間で簡単な議論を行います。</p> <p>次に、家庭医療学における医療職と患者のやり取りに対する視点が一つではないことを意識してもらうために、宮地が考える3つの視座(1. 事実発見モデル・2. 異文化交流モデル・3. 意味の探索／構築モデル)を紹介します。3. に該当する視座の例として、ナラティブの理論をふまえた診療について、主にRita Charonの構築したモデルを土台に、物語の理論が診療への視点をどう変えるのか、Narrative Medicineにおける3段階のアプローチ(配慮・表現・参入)について紹介します。</p> <p>事後課題：自分が診療にあたった患者について「パラレル・チャート」(講義の中で紹介します)を作成してきてください。2回目はその内容を踏まえて議論します。</p>
課題図書/参考図書	<p>課題図書：特になし</p> <p>参考図書：</p> <ol style="list-style-type: none">1. ナラティブ・メディスン. 物語能力が医療を変える. Rita Charon著. 斉藤清二訳. 2011. 医学書院.2. Primary Care: Theory and Practice. Trisha Greenhalgh. 2009. BMJ Books. “Chapter 2. The ‘ologies’ (underpinning academic disciplines) of primary health care”

講義名	決断の共有
講師	草場 鉄周
形式	1回目：講義、2回目：学習者自身が録画した診療を共有し議論
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「患者中心の医療の方法」における「共通の理解基盤」を構築するために必要な「決断の共有」の方法を理解する 2. 「決断の共有」を臨床現場で実践し、自らの診療を省察することができる
講義の概要	<p>事前課題：準備は不要ですが、患者中心の医療の方法については全体の構造を振り返っておくことを推奨します。</p> <p>当日内容：1回目は、患者中心の医療の方法における共通の理解基盤の構築を確認し、その際に必要な医療面接の技法の全体像を Calgary-Cambridge Modeを用いて理解します。その中で、中核テーマである「決断の共有」のプロセスを6段階に分けて理解します。最後に、模擬症例を用いて学習者同士での医療面接を実施し、「決断の共有」を実施するための技術への理解を深めます。</p> <p>2回目は学習者が提供する外来診療において「決断の共有」を必要とすると想定される患者との間の診療を許可を得て録画撮影し、それを学習者の間で共有します。実践する中で得られる手応えと困難さを振り返り、ディスカッションを通して更に理解を深めていきます。</p>
課題図書/参考図書	<p>課題図書：特になし</p> <p>参考図書：</p> <p>Skills for Communicating with Patients, 3rd ed. Jonathan Silverman, et al. 2013. CRC Press.</p>

講義名	地域志向アプローチ
講師	山田 康介
形式	2年間を通じて全6回. 1年目の1回目のみオリエンテーションと講義、2回目以降は実践報告とディスカッション
到達目標	<p>地域包括ケアを含む地域志向アプローチを講師と現場の指導医の協力のもと実践することを通じ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域志向アプローチの戦略, 展開について考察を深め ・ 「地域志向性」を心と体に染みつけ <p>地域の健康課題解決に貢献できる家庭医として フェローシップを修了する</p>
講義の概要	<p>1回目の講義では家庭医として生きていく上で非常に重要な基盤となる価値感「地域志向性」を紹介する. そして地域志向性を発揮して家庭医が主体的に行う地域における活動の方法論, とくに「地域診断 (ニーズアセスメント)」について講義を行う. 1回目の講義以降, フェローは自身が勤務する地域の健康課題 (ニーズ) を評価し, 解決・改善のための活動を実践し, 2年間5回にわたり実践報告とディスカッションを積み重ねる. 活動・実践は2年間を通じた大きなものでもかまわないし, 小さな取り組みを複数重ねてもかまわない. また2年間で完結することも求めない.</p>
課題図書/参考図書	<p>1) エリザベス T. アンダーソン 他. コミュニティ アズ パートナー 地域看護学の理論と実際. 医学書院, 2007.</p> <p>2) Robert Rhyme, et al. Community-Oriented Primary Care: Health Care for the 21st Century. American Public Health Association, 1998.</p> <p>3) 山田康介. 6 地域コミュニティを視野に入れた包括的なアプローチ. 家庭医療のエッセンス. カイ書林, 2012.</p> <p>4) 笥裕介. ソーシャルデザイン実践ガイド 地域の課題を解決する7つのステップ. 英治出版, 2013</p> <p>他, 多数ありますが講義で紹介します.</p>

講義名	継続性からの視点、そして苦悩と癒し
講師	草場 鉄周
形式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義「継続性からの視点」 (1年次) ・ 「苦悩への共感」「自己開示」を行った症例を共有し議論 (1年次) ・ 継続性を通じて深まる医師－患者関係から学びを得た症例を共有し議論 (全期間を通じて5回開催) ・ 講義「苦悩と癒し」 (2年次)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. プライマリ・ケアの特徴である「継続性」の定義と意義を理解する 2. 「継続性」によって医師－患者関係が傾聴・共感から戦友関係へと変容し、患者の苦悩に向き合う土台となることを理解する 3. 診療の場、あるいは患者の属性、更には患者の持つ疾患によって「継続性」の持つ意味と影響がどのように変化し臨床上の価値を持つか、またそのリスクをどう理解し対処すべきか、などを理解し実践できる 4. 患者の持つ「苦悩」を認識した上で、家庭医として患者への「癒し」や「希望」を提供するアプローチを理解し実践できる

<p>講義の概要</p>	<p>事前課題：準備は不要</p> <p>内容：講義「継続性からの視点」では、自己の継続性の経験を省察しつつ、継続性の定義や必要条件、更には意義を学ぶ。その後、傾聴から共感、そして戦友関係へと深まる医師－患者関係の有り様を学び、自己開示も含めた苦悩へ向きあう姿勢について理解する。次に、講義を踏まえて実際の臨床現場で「患者の苦悩への共感」や「自己開示」を意識的に実践する課題に取り組み、ワークショップで互いの経験を共有しディスカッションする。</p> <p>その後、2年間の同一医療機関での外来あるいは訪問診療での患者との継続的な関係性を定期的に振り返り、その中から診療の場、あるいは患者の属性、更には患者の持つ疾患によって「継続性」の持つ意味と影響がどのように変化し臨床上の価値を持つか、またそのリスクをどう理解し対処すべきか、などについて気づきがあった症例をレポートとしてまとめてグループで共有し、ディスカッションを通じて理解を深めていく。</p> <p>2年次の中盤では講義「苦悩と癒し」で患者が抱える「苦悩」の定義を確認しつつ、そこで家庭医が提供できる「癒し」の4条件、そして、その一つである「希望」のあり方を学ぶ。更に、そのために必要な家庭医の深い関わりを理解し、癒しの持つ精神性や限界について学びを深める。</p>
<p>課題図書/参考図書</p>	<p>課題図書：特になし</p> <p>参考図書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. McWhinney IR, Freeman T (葛西龍樹訳)：マクウィニー家庭医療学. パーソン書房. 2013. 133-157. 2. Casselle EJ: The Nature of Suffering and the Goals of Medicine. Oxford Univ. Press. 2004.

経営パート

講義名	経営パート導入・医療経営概論
講師	高橋 宏昌
形式	講義形式
到達目標	<ol style="list-style-type: none">1. 経営を学ぶことの重要性を理解する2. 応用編で学ぶカリキュラムについて理解する3. 理論やフレームワークを学ぶ重要性を理解し、実務で活かすノウハウを学ぶ
講義の概要	<p>事前の準備は必要ありません。</p> <p>なぜ医師たる我々は経営を学ぶのか？</p> <p>この問いに答えるため、実際に多くの院長が直面する経営課題や問題意識を事例に、受講者と一緒に考えながら解説してゆきます。</p> <p>また、倒産した病院の事業再生に関わった経験から、倒産させた病院経営者に共通する負のマインドと、その発生メカニズムについても考察してゆきたいと思います。</p>
課題図書/参考図書	<p>課題図書はありません。参考図書として、以下を紹介します。</p> <p>◇グロービスMBAマネジメントブックⅡ グロービス経営大学院 編著 ダイヤモンド社</p> <p>◇理系読書 犬塚壮志 著 ダイヤモンド社</p>

講義名	学習する組織
講師	草場 鉄周
形式	講義・グループディスカッション
到達目標	<p>1. 「学習する組織」の定義に関連してknowledge management、個人知と集合知の概念を理解する</p> <p>2. 「学習する組織」を構築するために必要な8つのコンセプトを理解し、フェローシップで学ぶ上で、フェローグループ、診療所、法人といった所属する組織を「学習する組織」として活かしていく方向性を理解する</p>
講義の概要	<p>講義では以下のテーマを扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習する組織とは？ ・Knowledge management ・個人の知識と組織の知識、そして集合知の創出 ・学習する組織を作るための8つのコンセプト <p>その上で、最後にこれまで所属してきた組織と自分自身の関係性を「学習」という観点から省察し、グループディスカッションで理解を深める</p>
課題図書/参考図書	<p>課題図書：なし</p> <p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習する組織ーシステム思考で未来を想像する（翻訳）．ピーターMセンゲ．2011．英治社．

講義名	医療制度における診療所のシステムと展望
講師	草場 鉄周
形式	講義
到達目標	<p>1. 日本の医療システムの特徴を医療保険制度・診療報酬制度・専門医制度・病院制度・医療法人制度・医師会と医療行政といった観点から幅広く理解する</p> <p>2. これから診療所に求められる機能や地域ネットワークのあり方を理解する</p>
講義の概要	<p>講義では以下のテーマを扱う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保険制度 ・診療報酬制度 ・専門医制度 ・病院制度と医療法人制度 ・医師会と医療行政 ・診療所システムの展望 <p>講義を踏まえた質疑応答や自由な意見交換を通じて理解しづらい点についてはより深めていく</p>
課題図書/参考図書	<p>課題図書：なし</p> <p>参考図書：なし</p>

講義名	効果的なプレゼン
講師	福井 慶太郎
形式	1回目 講義 2回目 課題をふまえたディスカッション
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭医療の指導医としてプレゼンの重要性を知る 2. プレゼンの準備、作成、実施の各段階について、目標と具体的なテクニックを知る 3. 自分のプレゼンの良いところ、改善すべきところに気付き、今後のプレゼンへの個別の目標を得る
講義の概要	<p>[1回目]</p> <p>事前課題: 与えられたテーマについてプレゼンを作成する</p> <p>当日: 事前課題を発表していただき、その後プレゼンの重要性を提示する。続いてスライドプレゼンの一般的な準備、作成、実施についてレクチャーする。レクチャーの内容をふまえて、事前課題の改善点を振り返りを、発表する。</p> <p>[2回目] (「タイムマネジメント/プレゼン実践の報告と評価」)</p> <p>事前課題: 新たに与えられたテーマについてプレゼンを作成する</p> <p>当日: プレゼンを作成し、フェロー同士、指導医からフィードバックをもらい、次のプレゼンの機会にむけた各自の目標を獲得する</p>
課題図書/参考図書	

講義名	タイムマネジメント
講師	大西 規史
形式	レクチャー形式+経験共有（事前課題、事後課題あり）
到達目標	<p>①プライオリティマネジメントを意識したToDoList管理ができるようになる。</p> <p>②Delegation（委譲）を効果的に実施することができる。</p> <p>③タイムマネジメントの技術的な点を理解し、自身の価値観に適合したMy own time managementを展開できるようになる。</p> <p>④タイムマネジメントを通じて家庭医として、自分の人生のハンドルを握れるようになる。</p>
講義の概要	<p>以下の内容をインタラクティブな議論を交えつつ展開する</p> <p>① Time Management 自己振り返りと共有</p> <p>② 原則と手法の紹介</p> <p>③ 家庭医としてどうするか</p> <p>事後課題欄：「タイムマネジメント/プレゼン実践の報告と評価」の際にタイムマネジメントの課題についてプレゼンテーションをする機会を持つ</p>
課題図書/参考図書	<p>①Crosby JW. CMAJ. 2004 Mar 16;170(6):949-50.</p> <p>②Pfifferling, John-Henry, and Kay Gilley. <i>Fam Pract Manag.</i> 1999 Jun;6(6):36-42.</p>

講義名	マネジャーことはじめ
講師	加藤 光樹
形式	1回目：講義 2回目：講義と実践を踏まえた議論
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マネジャーの役割を説明できる 2. マネジャーが遭遇する葛藤について説明できる 3. プレイヤーとマネジャーの違いを説明できる
講義の概要	<p>講義では、組織運営におけるリーダーとフォロワーの役割について概説し、フェローが診療所内でどのような役割を期待されているのかについて解説する。</p> <p>これを踏まえ、マネジャーとしてフェローがリーダーとどのように協調していけばよいのかについて、具体的なtipsを交えながら概説する。また、スタッフとの関わり方についての注意点も解説する。</p> <p>これらを踏まえ、実践報告では個別の経験にマネジメントのフレームを用いた意味付け、振り返りを行い、社会構成主義的に学習していく。</p>
課題図書/参考図書	<p>中原淳 (2014). 駆け出しマネジャーの成長論ー7つの挑戦課題を「科学」する. 中央公論新社. 東京. pp.294.</p>

講義名	会議運営・質問術
講師	西園 久慧
形式	事前課題、講義、講義後の実践、実践内容のレポート報告
到達目標	診療所運営に必要とされる会議運営の要点を押さえて、実践に つなげることができる
講義の概要	<p>日常診療における会議運営で、学習者が困難なポイントを共有した上で、会議の進行をスムーズにする「3つのマネジメント（アイデアマネジメント、タイムマネジメント、チームワークマネジメント）」を講義内で学んでいただく。</p> <p>学んだ内容を知識も新しい講義後数ヶ月以内に実践し、講義前後での会議運営の変化をレポートして文字化し、適宜フィードバックを行なっていく方略となっています。</p>
課題図書/参考図書	<ol style="list-style-type: none"> 1) コクヨの3ステップ会議術 2) 「15分ミーティングのすごい効果」

講義名	リーダーシップとマネジメント
講師	高橋 宏昌
形式	ケーススタディ形式
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップとマネジメントについて理解する 2. ケースを通じてリーダーシップについて考察し理解する 3. 動機づけ理論を理解し日々のマネジメントへの活かし方について考察する
講義の概要	<p>ケースと講義を通してリーダーシップとマネジメントについて考察します。</p> <p>ケーススタディでは、人はどうすれば動機づけられ仕事への意欲を高めることができるのか（動機づけ要因）、どうすれば不満が高まり仕事への意欲を失ってゆくのか（衛生要因）、ケースを分析しつつフレームワークに当てはめて受講者と一緒に考察してゆきます。</p> <p>一般的に不満を解消する衛生要因は、制度や設備などの環境整備でカバーしやすいのに対し、動機づけ要因はリーダーとしてのスキルが求められます。</p> <p>リーダーシップは診療チームを率いる医師に必須のスキルと言えます。</p>
課題図書/参考図書	<p>課題図書はありません。</p> <p>参考図書として以下の書籍を紹介します。</p> <p>◇グロービスMBAリーダーシップ</p> <p>グロービス経営大学院 著 ダイヤモンド社</p>

教育パート

講義名	教育パート導入/医学教育者の12の役割①
講師	宮地 純一郎
形式	反転授業形式(反転授業形式とは、事前課題で知識をある程度得てもらい、授業当日はその知識にまつわる疑問点の整理や、それを具体的な事例への適用に時間を費やす形式です。)
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. HCFMフェローシップにおける医学教育パートの全容を理解する 2. 医学教育における教員が行う活動の全体像を理解し、振り返るためのフレームワークの一例として、「医学教育者の12の役割」の内容を理解する 3. フレームワークにそってこれまでの教育活動の傾向を振り返り、フェローシップ中に注力したい領域を考え、同期・指導医と議論する。 4. (2年目開始時) フェローシップ中の自分の教育活動を踏まえて、自分の担っている役割の変化を振り返り、今後注力したい領域について考え、同期・指導医と議論する。
講義の概要	<p>事前課題：Wordファイル「事前課題1_教育者の12の役割2017フェローシップ」(参考資料のHarden and Crosby 2000の要約)を通読して下さい。</p> <p>当日内容：(教育パート導入)：フェローシップの医学教育パートで扱うコンテンツを1. 医学教育における生涯学習、2. カリキュラム開発、3. 方略と評価の実施、4. 学習者教育者関係の構築 の4つの領域にわけて説明します。</p> <p>(医学教育者の12の役割)「教育」という言葉から、多くの方は「講義=知識を伝えること」や「指導=業務を伝えること」を連想されるのではないのでしょうか？実は医学生・研修医の成長のために指導者が担える役割はずっと多様です。このテーマでは、医学教育分野における先行研究に基づいて作られた指導者の多様な役割の全体像のフレームワークである「医学教育者の12の役割」について事前に資料を読み込んで理解してもらいます。</p> <p>当日の講義の中では事前課題の通読では理解しきれなかった部分について講師と双方向性の対話で理解を深めた後に、自分がこれまで担ってきた役割・あまり注意したことがなかった役割、そしてこれから経験を積みたい役割について考え、共有することで、フェローシップ中における医学教育パートで注力したい領域を考えてもらう予定です。</p> <p>事後課題：特にありません。</p>

課題図書/参考図書

課題図書：Wordファイル「事前課題1_教育者の12の役割2017フェローシップ」（参考資料のHarden and Crosby 2000の要約）

参考図書：1. Crosby, RM Harden, Joy. "AMEE Guide No 20: The good teacher is more than a lecturer—the twelve roles of the teacher." *Medical teacher* 22.4 (2000): 334-347.

2. Cruess, Sylvia R., Richard L. Cruess, and Yvonne Steinert. "Role modelling—making the most of a powerful teaching strategy." *Bmj* 336.7646 (2008): 718-721.

講義名	カリキュラム作成(CD)総論① 5+1モデルとOBME
講師	宮地 純一郎
形式	講義とグループディスカッション
到達目標	<p>1. カリキュラムにまつわる専門用語(4つのカリキュラム・隠れたカリキュラム・カリキュラムの構成要素)を知る</p> <p>2. カリキュラムを作ることの意義について自分が受けてきたカリキュラムを踏まえながら討論する</p> <p>3. University of West Ontario(UWO)の5+1モデルとアウトカム基盤型カリキュラムの概略を理解する</p>
講義の概要	<p>事前課題：課題図書を通読してきて下さい。</p> <p>当日内容：カリキュラムやプログラムと聞くとほとんどの方は講義の「時間割」のことを連想すると思いますが、医学教育において「カリキュラム」という専門用語を用いる際にはそれ以上の意味(学習目標・学習内容・学習の機会・評価方法)が含まれています。</p> <p>本講義でははじめに、そうした専門用語としてのカリキュラムに含まれるものを確認しながら、教育学におけるカリキュラムの4つの捉え方を紹介します。次に、カリキュラムを計画することの意義について受講生と講師の間で議論します。最後に具体的なカリキュラムの計画のフレームワークの例として、2つの例を紹介します。1つ目はKernの6step modelを修正して家庭医向けに作り変えたUniversity of Western Ontarioの5+1モデル。2つ目は近年医学教育領域で卒前・卒後教育の両方で大々的に様々な国で取り入れられているアウトカム基盤型教育に基づいたカリキュラム。最後にこの2つのモデルについてフェローシップでどこまで皆さんに経験してもらおうかの概略を提示します。</p>

課題図書/参考図書

課題図書：

1. カリキュラムとカリキュラム開発についての理解のために 「医学教育を学び始める人のために」 著者:Ronald M. Harden Jennifer M. Laidlaw 監訳者:大西弘高出版社:篠原出版, 2012

p. 77-- - 82 第10章 カリキュラムを構成するもの

p. 83-- - 92 第11章 カリキュラム開発における10の質問

2. 5+1モデル(下記の6段階アプローチと類似)の事前理解のために

「医学教育プログラム開発 6段階アプローチによる学習と評価の一体化」 著者:David E Kern、他 出版社:篠原出版, 2003

p. 5-- - 9 1章 概説: 教育プログラム開発への6段階アプローチ

3. アウトカム基盤型教育の理解のために 「医学教育を学び始める人のために」

著者:Ronald M. Harden Jennifer M. Laidlaw 監訳者:大西弘高 出版社:篠原出版, 2012

p. 45-- - 53 第6章 アウトカム基盤型アプローチの必要性

p. 61-- - 67 第8章 学習アウトカムの説明と伝達

参考図書：

アウトカム基盤型教育の理論と実践 田邊政裕編. 2013. 篠原出版新社.

講義名	CD各論:ニーズ評価
講師	柏崎元皓
形式	① 講義・グループディスカッション ② ワークショップ形式
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者にとって真に有益で現実的な教育計画を立て、実行するための第一歩として、ニーズ評価を適切に行うことができる。 ・ニーズ評価を行うことの意義を説明できる。 ・「一般ニーズ」と「個別ニーズ」に分けて説明することができる。 ・ニーズ評価に必要な項目を列挙できる。 ・ニーズ評価について、認知レベルから実践できるレベルへと理解を深める。
講義の概要	<p>事前課題：課題図書の該当範囲を通読して下さい。</p> <p>内容：2021年度更新予定</p>
課題図書/参考図書	<p>医学教育プログラム開発</p> <p>p. 12 、 p. 27</p>

講義名	教育理論①：成人学習理論
講師	宮地 純一郎
形式	講義
到達目標	<p>1. 「理論」を使うことの強み・限界について討論する</p> <p>2. 医学教育における学習理論における潮流のうち、主要な5つ(行動主義・認知主義・人間主義・社会学習・構成主義)がそれぞれ、何を学習とみなすのか、何が学習を助けると捉えるのか、教育者の役割は何だとみなすのかを理解し、それぞれの違いを述べられる</p>
講義の概要	<p>事前課題(必須)：1. 課題図書のうち、「プレイフル・ラーニング」の指定したページについて、特に「構成主義」「正統的周辺参加」「動機論」について注目をして通読してください。</p> <p>2. (応用・努力目標)：課題図書の「traditional-learning-theories」を通読して来て下さい。ただし、これは学問の領域が医学と大きく異なるため、理解に苦労すると思われるので、「20150427 様々な教育理論(要約)(草場)」を参考にして下さい。</p> <p>当日内容：「学習」は、「悪性腫瘍」や「冠動脈狭窄」とは異なり、肉眼や顕微鏡を用いて直接観察することはできません。よって学習を捉えるためには、何らかの理論や枠組みを用いた理解が必要となります。そして、学習の捉えるための理論はいくつもありますが、それぞれに特徴と限界があります。教育者として、状況に応じて自分のアプローチを変えられるようになるためには、複数の理論の特性を知り、学習を複眼的に見ることが助けになります。この講義は学習への複眼的な視点を身につけるための入門的な役割を果たします。</p> <p>当日は、まず「理論とはなにか?」「理論を用いることの強みと限界とはなにか?」について、みなさんが比較的馴染んでいる、家庭医療学を含めた医学における理論をとりあげ、振り返る時間を持ちます。次に、具体的な教育の事例を用いて、異なる教育理論を用いることで同じ場面であっても、いかに学習や教育についての見え方が異なってくるのかを実感してもらおうべく、ディスカッションを展開する予定です。</p> <p>事後課題：皆さんの学習・教育経験の中から具体例を思い出し、それを5つのスタンス(行動主義・認知主義・人間主義・社会学習・構成主義)を用いるとどのように見えるかをまとめてみて下さい。(1つの経験を5つのスタンスで考えてもよいですし、それぞれ別の経験を持ち出しても構いません。)また、医師としての学びでも、それ以外のより幅広い経験(幼少時～今まで)についてでも構いません。</p>

課題図書/参考
図書

課題図書:

1. プレイフル・ラーニング. 上田信行、中原淳. 2012. 三省堂. p. 49-54, 75-78, 97-102. (持っていない場合は相談下さい.)
2. Caffarella, R. S., & Baumgartner, L. (2007). *Learning in adulthood: A comprehensive guide*. Jossey-Bass. Chapter 11 "Key Theories of Learning" p248-266. (配布します).
3. Wordファイル「20150427 様々な教育理論 (要約) (草場)」

参考図書:

1. 大学における「学びの場」づくり: よりよいティーチングのための7つの原理. スーザン・A. 他著 翻訳: 栗田佳代子 玉川大学出版部, 2014.
2. Taylor, David CM, and Hossam Hamdy. "Adult learning theories: Implications for learning and teaching in medical education: AMEE Guide No. 83." *Medical teacher* 35. 11 (2013): e1561-e1572.

講義名	CD各論：教育目標
講師	中村郁恵
形式	① 講義・グループディスカッション ② ワークショップ
到達目標	1. 明確になった学習者のニーズに合わせた教育目標を設定することができる 2. 一般目標と個別目標の違いを解説することができる 3. 個別目標の分類（タキソノミー）を解説することができる
講義の概要	<p>事前課題：初回不要です。初回セッションで事前課題を提出するので課題を行って2回目のセッションに参加してください。</p> <p>当日内容：初回セッションでは一般目標と個別目標について、タキソノミーについて、目標設定に関連した諸注意について具体例を示しながら解説し、受講者の経験をディスカッションしながら理解を深めます。1回目のセッション後に事例が課題として出されますので、2回目のセッションでは事例を用いてグループディスカッションを行います。</p>
課題図書/参考図書	<p>参考図書</p> <p>1医学教育プログラム開発 6段階アプローチによる学習と評価の一体化</p> <p>2タキソノミーとは</p> <p>https://www.igaku-shoin.co.jp/paper/archive/old/old_article/n2003dir/n2544dir/n2544_04.htm</p>

講義名	CD各論：教育方略と実施
講師	宮地 純一郎
形式	反転授業形式
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育方略の選択/実施において重要な点を理解する 2. これまでのコースでたててきた個別目標にもとづいて教育方略を立ててみる 3. 自分のセッティングにおける実施面でのリソースや制約を列挙することができる
講義の概要	<p>事前課題：課題図書および過去の講義のスライド資料(「20200618 教育方略と実施」)を通読して下さい。(書籍がない場合は連絡を下さい。)</p> <p>当日内容：</p> <p>当日は専用のワークシートを用います：https://docs.google.com/document/d/1SPrgSVqCOUcvSDuAY1EGtqjvL7CckGqu15y6sn67Mj0/edit</p> <p>はじめに、事前課題、特に過去の講義スライド資料を読む中で、わかりにくかった点および疑問点について扱います。次に、「教育目標」のセッションのワークの中で作成した個別目標について、教育方略を作成するワークを行います。ワークの内容はフェロー同士で共有し、講師と議論を行います。更には、そのワークで作成した教育方略に、「学習者中心性」「チーム学習」「自己主導型学習」の中から、一つ教育戦略を選び、それを反映させることで教育方略がどのように変化するか、個人ワークを行い、成果を共有し、講師と議論します。最後に、フェローシップコースで触れる方略の各論の概要をまとめる予定です。</p>
課題図書/参考図書	<p>課題図書：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「医学教育プログラム開発 6段階アプローチによる学習と評価の一体化」 著者:David E Kern、他 出版社:篠原出版,2003 第5章 Step4 教育方略 2. 「家庭医療のエッセンス」草場鉄周編. 2012. カイ書林. p272-291外来教育の方法論と実践. 3. スライド資料「20200618 教育方略と実施.pptx」 <p>参考図書：特になし</p>

講義名	CD各論 医学教育における評価の考え方(2021用)
講師	宮地 純一郎
形式	反転授業形式
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学教育の評価に関する専門用語の意味を理解・説明できる 2. 医学教育における評価の考え方が歴史的にどのように変化してきたのかについて、3つのスタンス(1測定、2判断、3システム)を理解し、その違いの概略を理解できる。特に、Workplace based assessment(臨床現場での評価)における考え方が(古典的な試験において1測定が重視されたのと対称的に)2判断と3システムの考え方が重視されていることを理解できる。 3. 「評価の6つの問い」に沿って評価の計画を試しに立ててみる(努力目標)
講義の概要	<p>事前課題：課題図書を読み、以下に挙げる用語を説明できるようになってきて下さい。分量が多いため、以下の概念を理解できたと感じれば通読の必要はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価に対する6つの問い ・総括的評価・形成的評価の違い ・妥当性と信頼性 ・ミラーのピラミッド、ピラミッドの項目ごとの評価方法 ・Workplace based assessment <p>当日内容：専用のワークシートを用いて議論を中心に行います。https://docs.google.com/document/d/1NjnWY6wKLaurwatNPDZiu5vdky_gKS-S4REg7bTfiv8/edit (2020年度版) 具体的な議論の内容は以下の予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事前課題を踏まえて上記の用語の理解を深める質疑応答 2. 臨床事例(肝機能・老年医学領域)を用いた評価の理解を深めるワーク 3. 教育事例を用いた評価の計画を立てるワーク(時間があれば) <p>事後課題：なし</p>
課題図書/参考図書	<p>課題図書</p> <p>①指導医のための医学教育学 実践と科学の往復. 錦織宏・三好沙耶佳編. 京都大学学術出版会. Chapter 12 ちゃんとした試験をすれば授業はいらない? P126-136(ない方はお知らせ下さい)</p> <p>②医学教育を学び始める人のために 第28章 評価に関する6つの質問 第30章 臨床評価とパフォーマンス基盤型評価</p>

③医学教育プログラム開発 第7章 評価とフィードバック

参考図書

1. Schuwirth, Lambert WT, and Cees PM van der Vleuten. "A history of assessment in medical education." *Advances in Health Sciences Education* 25.5 (2020): 1045-1056.
2. 医学教育における学習者の評価② 各論(医学教育2013:44(6);429-438)
3. Norcini, J., & Burch, V. (2007). Workplace-based assessment as an educational tool: AMEE Guide No. 31. *Medical teacher*, 29(9-10), 855-871.

講義名	方略各論①外来プリセプティング・ CSR
講師	北山 周
形式	講義とグループディスカッション
到達目標	<p>1. 外来教育の全体の流れを概説できる</p> <p>2. 学習者診断を行い、OMP (One Minute Preceptor = 5 micro skills)、SNAPSS を使うことができる</p> <p>3. CSR (Chart Stimulating Recall) を行なうことができる。</p>
講義の概要	<p>外来教育の重要性と方略を理解し現場で実践することができることを目標とし、外来診療教育の目的を再確認してもらいつつ、これまでの経験を振り返りながら知識の確認、実践における準備からの実際の流れの伝達をスライドを使用した講義形式で実施。</p> <p>グループディスカッションでは主に教育を受けてきた経験を振り返りながら、指導医として教育する際に気を付けるべきことや困難に感じる場面を具体化。その後の講義形式の際に重点的に説明。（環境の調整、時間の概念、学習者との関係性など）</p> <p>明確な事後課題はありませんが、「Teaching Video Review」を行うことを推奨しています。</p>
課題図書/参考図書	<p>家庭医療のエッセンス</p> <p>OMP 5microskillsについて 岡田唯男</p> <p>http://d.scribd.com/ScribdViewer.swf?document_id=17490374&access_key=key-14rrh1hp06j4p9hez8g1&page=1&version=1&viewMode=list</p> <p>Wolpaw, T. M :SNAPPS :A Learner-centered Model for Outpatient Education. Acad Med. 78(9) :893-898, 2003</p> <p>http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/14507619</p> <p>S. Tsuda, M D. Fetters; Outpatient precepting -A review of the literature 日本プライマリ・ケア連合学会誌 2013, vol136, no. 4, p318-323</p>

講義名	方略各論②ビデオレビュー
講師	今江 章宏
形式	講義、事後課題
到達目標	ビデオレビューの教育理論的背景と、実施の流れについて概要を述べることができる。
講義の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオレビューの教育理論的背景 ・実施のポイント ・評価とフィードバック ・評価シート活用のポイント ・学習者に対する侵襲性への配慮 ・事後課題 <p>実際のビデオレビュー風景を動画で見て、教育者視点からの感想や意見をメールで共有</p>
課題図書/参考図書	<p>参考図書/文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草場鉄周編 家庭医療のエッセンス カイ書林 2012年 ・William Eaton. Canadian Family Physician. Vol 6:2014.91-92. ・Linda E. Pinsky. J Gen Intern Med. 2000;15:805-810.

講義名	方略各論③：症例カンファとSEA
講師	安達 記広
形式	講義、グループディスカッション
到達目標	フェローとして必要な症例カンファとSEAの実践が出来る
講義の概要	<p>専攻医教育の実践方法として CBD(Case-Based-discussion)、FM(Family Medicine)カンファ、SEA(Significant Event Analysis)について主に扱う。</p> <p>これらの背景、教育効果、目的、メリット、デメリット、実践方法について講義を行い、実際にフェローの教育実践の経験を基にディスカッションを通じて内容深めていく。</p>
課題図書/参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・山本和利．患者中心の医療の方法 13章．診断と治療社 ・草場鉄周．家庭医療のエッセンス 7章．カイ書林．2012 ・林野泰明．実践行動医学 38章．MEDSi．2010 ・Emma H et.al. Twelve tips for Promoting significant event analysis to enhance reflection in undergraduate medical students. Medical Teacher. 2002, Vol.24, No.2, p121-124 ・連載省察的実践家入門 日本プライマリ・ケア連合学会誌 332号～352号 ・Paul B et.al. A review of the current evidence base for significant event analysis. Journal of Evaluation in Clinical Practice. 2008 vol.14, No.4, p520-536

講義名	方略各論④小グループ学習／抄読会
講師	榎原 剛
形式	講義形式
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループ教育の特徴・意義と問題点を説明することができる ・教育目標に応じた小グループ教育のタイプ選択を行うことができる ・小グループ教育準備のポイントを押さえつつ学習計画書を作成することができる ・心理的な成長を促す小グループ学習のポイントを知る
講義の概要	<p>事前課題で提出いただく物はありませんが、今までに「小グループ教育」を行った経験や、「小グループ」教育を行ってみたいの感想などを共有してから講義を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小グループ教育とは ・小グループ教育の特徴と意義 ・小グループ教育のタイプ選択 ・小グループ教育が陥る罠 ・小グループ教育の手順 ・心理的な成長を促す小グループ学習
課題図書/参考図書	<p>課題図書はとくにありません</p> <p>参考図書：臨床指導はこうやる</p>

講義名	評価各論①：フィードバックの考え方
講師	安藤高志
形式	講義、ロールプレイとディスカッション
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックとは何かを説明できる ・フィードバックのステップを理解する ・過去の自分のフィードバックを振り返り、次回の実践にむけて改善点を見出すことができる
講義の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックの構造 ・人の成長に必要な環境と支援について ・フィードバックの5ステップ ・模擬フィードバックのロールプレイとディスカッション
課題図書/参考図書	<p>①実践！フィードバック．中原淳．PHP研究所．2017年</p> <p>②ハーバードあなたを成長させるフィードバックの授業．ダグラス・ストーン，シーラ・ヒーン．東洋経済新報社．2016年</p>

講義名	評価各論②（ショーケースPFとその評価）
講師	堂坂瑛子
形式	講義、ディスカッション
到達目標	北海道プログラムでのPF評価の流れ、評価方法を知る 妥当なPF評価を行うことが出来る
講義の概要	<p>講義ノート</p> <p>ショーケースPF評価に関する学習者の疑問を通して、PC学会と専門医機構のPF領域・評価の考え方の詳細・HCFM評価システムを学ぶ。また、実際のPFを評価し、自分自身の評価の妥当性を振り返る。</p> <p>2021年度から内容変更予定</p>
課題図書/参考図書	PC学会・専門医機構のHP

講義名	HCFM後期研修プログラムと評価(GR/MSF含む)
講師	堂坂瑛子
形式	講義・ディスカッション
到達目標	総合診療専門医を育てるためのプログラムの一例として、HCFMプログラムの構造と評価の内容を専攻医に説明できる。その強みと課題を考えフェローや指導医と議論出来る。
講義の概要	<p>講義ノート</p> <p>HCFM後期研修プログラムと評価方法についての各自の疑問を通して、HCFMプログラムの目標・評価・方略を学ぶ。</p> <p>2021年度から内容変更予定</p>
課題図書/参考図書	特になし

研究パート

講義名	研究パートオリエン/家庭医療と臨床研究レクチャー
講師	佐藤弘太郎
形式	講義形式
到達目標	<ol style="list-style-type: none">1. 家庭医にとって研究活動の意味の多様性を知る2. 臨床研究を行う上で最も重要なスキルについて述べるができる。3. 研究の背景にある世界観の違いについて知る
講義の概要	<p>上記についてスライドを用いて説明します。</p> <p>また基礎コースと応用コースの違いについても説明します。</p> <p>特に事前準備は必要ありません。</p>
課題図書/参考図書	<ol style="list-style-type: none">1) 帝京大学教授 井上和男先生 : Inoue Methods : https://www.chiikiiryu.jp2) Stange, Kurt C., William L. Miller, and I. McWhinney. "Developing the knowledge base of family practice." <i>FAMILY MEDICINE-KANSAS CITY</i> 33.4 (2001): 286-297.3) 今福輪太郎. "理論的貢献ができる研究をデザインする: 研究パラダイムの理解の重要性." <i>医学教育</i> 50.1 (2019): 053-060.4) 野村康. <i>社会科学の考え方: 認識論, リサーチ・デザイン, 手法</i>. 名古屋大学出版会, 2017.5) Creswell, John W., and J. David Creswell. <i>Research design: Qualitative, quantitative, and mixed methods approaches</i>. Sage publications, 20176) 伊藤邦武. <i>プラグマティズム入門</i>. 筑摩書房, 2016.7) 『混合研究法の基礎—社会・行動科学の量的・質的アプローチの統合』西村 書店, 2017年8) 時津倫子. "質的研究の理論的背景." <i>異文化コミュニケーション論集</i> 17 (2019): 57-65